

寺報 佛心

第63号

【発行所】

日輪山 長久寺
岩国市美和町生見八一七
電話 〇八二七（九六）〇九八二
FAX 〇八二七（九六）〇九八二
発行人 三上宗順

除夜の会のご案内

光陰矢の如し。また一つ年を取る…。

忙しいは心が亡いと書き、慌しいは心が荒れると書く…
大みそかには、ちよつと振り向いて、この一年の自分を見つめてみましょう。

それはきつと新しい年を迎える準備にもなるのでしよう。



来る十二月三十一日午後十時四十五分から除夜並びにお焚き上げ供養の法要を行います。除夜の鐘は十一時十五分

頃からスタートし、翌一日の〇時三〇分ごろまでの予定で百人つ、お参りの方に順次ついて頂きます。

昨年同様に感染対策の一環で、本堂内での飲食のお接待はしませんが、缶入りの暖かい飲み物、干支の土鈴など粗品も用意しています。

本堂仏前にお参りされ、飲み物等を受け取られた方は、順次鐘つき堂へお回り下さい。
〈除夜の会のお焚き上げ〉

信心から求めたものは、感謝の気持ちで返納しましょう。前日までに、返納したい仏具やお札、お守りなどご持参ください。

幸せになる方法 その⑩

一カ月前だったでしょうが、「真の柔道家が、試されている」という新聞の見出しは、ロスオリンピック柔道金メダリストの山下泰裕さんが事故による頸椎損傷で、手術・リハビリを行い、このほど退院したという記事でした。

日本オリンピック委員会の会長が交代したというのは知っていました。あの屈強な柔道家が、しかもスポーツ界の頂点を極めた人が、よもやそのような境遇にあるとは知りませんでした。

「いいことも悪いことも、幸運も不運も、いろんなことが

起きての人生だ」そして「柔道で得た教えがある。柔らの道とは、鍛錬で得たものを日常や人生で生かす事。真の柔道家とは強さではなく、それをどれだけ実践するかだ。

首から下が動かなくなつた今、私が真の柔道家かが、試されているのだと思う」と語り、東海大教授への復帰を目指しているというものでした。

人には各々人生が有り、山下さんのような一流の道も、二流も三流も私のような道も…。各々がその道を歩んできたし、これからも歩みは続く。人生とは、色々な事が起きて、ただ実直に車椅子を、歩を進めるといふ事のようにです。幸不幸とか、運不運とかは、目的でも結果でもなく追い求めるものでもない。歩む途中に起きた事。だとしたら幸せとは、ただ歩む事のようにです。

熊に善の心はあるか？

暑い秋が終わると急に暖房が欲しい寒い秋になりました。

柿がたわわに実り、秋らしい風景に、ほっと一息です。

我が家も柿が豊作でした。

富有柿は「果物の王様」と呼ばれ、栄養価も糖度も高くビタミンも豊富だそうです。

私の身边も熊の出没情報が頻繁。やっと政府も対策に乗り出しました。熊は沢山柿など食べてすっかり栄養を蓄えて冬眠し出産する。最近は人里に美味しい餌がいつでも有り、冬眠しない熊もいるとか。美味しい餌の中に人間も入っているとしたら：怖いですね。

かつて人間も特に雪の多い地方では、冬は活動を控え冬眠状態の生活していたようです。しかし戦後、電気の普及で寒さがしのげ食べ物も十分確保でき、冬眠の必要はなくなりました。山に薪を取りに行かなくてもいいし、残飯が出るほどの食生活で、すっかり人間の生活スタイルが変わってしまいました。熊が餌を求めて街中に出没していますが、熊たちの生活スタイルも変わるはずですね。

生活スタイルの大変革といえばスマホ。偽情報や詐欺の温床と指摘されていますが、このAIの進歩は私たちには予想も付かない危険性をはらんでいると言います。今後10年の間に100年分の爆発的に進歩をとげ、製造工場や建設現場で人間の労働を奪い、警察や軍隊の機能をはたす。

ある学者など「AIを征する者が世界を征する」と警告。とするとこのAI、それを扱う人間の心に頼るしかない。はたして人間は心をコントロール出来るのでしょうか。

ところで今年ノーベル賞に

輝いたのは「制御性T細胞」の発見と機能の解明。よう分らんことですが、日本人はすごいんですね。その免疫細胞ですが、どうも善玉と悪玉があるらしいのです。免疫というのは、例えば風邪菌などが体に入ると直接攻撃してくれる善玉とばかり思っていました。たが、何と癌を悪化させる悪玉にもなるとは驚きです。身体そのものが善悪のバランスで成り立っているのなら、人間の心にも善や悪があっても不思議ではない気がします。

もともとこの善と悪。「この木の実を食べられるか食べられないか」という見分けから始まったらしいです。それからおよそ10数万年の間に心の中の善悪が、こんなに変わってしまったようなのです。それにしてもこの善悪。人

間以外の自然界にはなく当然熊にもなく、残念ながら人間の価値観・習慣・常識、それに人間の感覚みたいなもの。早い話自分の都合の悪いものが悪でその逆が善。癌細胞・風邪菌も悪、法や道徳を犯すのも悪・熊が襲うのも悪など種々雑多。しかしこの悪、見方や立場が変われば善にもなればあいまいにもなる。

ところで道元禅師は「人の心元より善悪なし」、つまり善だ悪だ好き嫌いなどというものは、縁という巡り合わせで起こる心の働きであって、生まれたばかりの赤ん坊の心に善悪はないと言われるのです。もしも赤ん坊の心を忘れたならば、風邪菌や悪人には近づかない事。当然熊にも。熊に心が有るのか無いのか分からないけど、言っておくが熊さん、私は美味しくない。